

喜寿を迎えて

喜寿という人生の節目の誕生祝に皆様より身に余る立派なお花を頂戴いたしました。心からお礼申し上げます。

日本老年医学会は、高齢者の定義を 65 才から一挙に 75 才に引き上げる提案をしています。近年我が国の健康寿命の伸長を考慮しますと、これを是とするに吝かではありませんが、深刻な出生率低下と高齢者激増による国家財政破綻を回避するために、高齢者の潜在労働力を当てにした一億総雇用策と福祉・医療費削減、あわよくば GDP と物価上昇、それによる税収アップを狙った経済最優先内閣の差し金ではと勘繰りたくなります。

既に新提案を超えた私は“まあだだよ〜”と居据っていますが、75 才を超えると巷間高齢者の社会的貢献には程遠く、「足腰は弱る、思考力は鈍る、病気は増える上に小言はならべる」といった老いを実感しています。しかしながら妙に細かいことには目が止まり、現状維持に汲々としている若者に苛立ちを覚えます。泰然自若も一策ではありませんが、テニス・ピンポン・ボクシング選手のフットワークを想像してみてください。常に体を動かしていないと次の一手が打てませんよね。収斂したものは必ず拡散に向い、水が加熱されると水蒸気となって膨らむように質から量への変換、そのまた逆も可、いつも動いていないと居心地が悪くはありませんか。もう一度はまゆう会のミッションに立ち戻ってはいかがでしょうか。老いの繰り言と聴き流してください。

皆様にとって明日もいい日でありますように。

感謝

2017 年 1 月 19 日

市丸 喜一郎